

〈古代〉

# 熊野街道沿いは、 信仰の大観光地となった

すみよし  
住吉区ゆかりの  
キャラクター6  
つもりくにもと  
津守国基



今から約9百年前ごろから和歌山県の熊野が浄土（災いや悪行のない世界）として京都の公家をはじめ多くの人々がお参りのために旅立つようになり、そのときに通った道が熊野街道で、大阪から熊野までの街道沿いの99か所に王子社と呼ばれた神社が置かれました。そのうち住吉には津守王子社が墨江小学校付近にあったといわれています。

このころ、住吉大社は歌人としても有名な津守氏の影響もあり、和歌の神としても広く知られるようになり、公家による住吉詣でがさかんになりました。荘厳浄土寺や極楽寺など街道沿いの寺院も整備され、その後近世を通じて一大観光地としてにぎわうようになります。

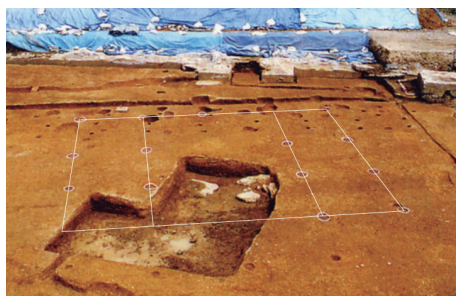
荘厳浄土寺は、住吉大社の神主であった津守国基が浄土信仰の流行を受けて浄土教の寺院として再興したお寺です。発掘では当時の瓦や土器が出土しています。

遠里小野3丁目にあったと伝えられる「榎津千軒」という村の一部も発掘されています。平安時代の4棟の建物と井戸が見つかっています。この村にあった榎津寺というお寺は奈良時代に建てられますが、南北朝時代（約7百年前）の争乱で村ごと戦災にあい、本尊は遠里小野村にある極楽寺に移されたと伝えられています。



荘厳浄土寺(建物・発掘風景・礎石・出土瓦)。境内は府史跡

えなつのむら たてもの  
榎津郷の建物。南  
北朝時代に戦災で  
なくなつたと伝え  
れる

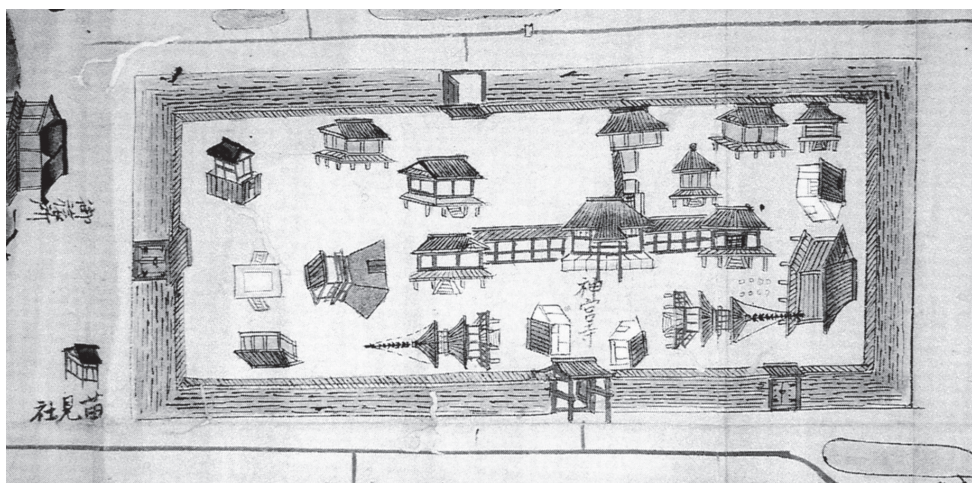




## 住吉三大寺の 移り変わり

平安時代末期、住吉大社の社領には住吉神宮寺、莊嚴浄土寺、津守寺（瑠璃寺）の三つのお寺がありました。これを住吉三大寺といいます。住吉神宮寺と津守寺はいずれも明治時代になって廃止されましたが、神宮寺にあった二つの大塔のうち一つは徳島県の切幡寺に移築されて今も残されています。津守寺は津守氏の氏寺で、千百年前の延喜元（901）年につくられたと伝えられていますが、戦後まもない道路工事中に、地元の考古学者が瓦を拾い集めて、奈良時代からお寺があったことがわかりました。また、神宮寺も奈良時代の天平宝字2（758）年につくられたと伝えられていますが、発掘ではそれを確かめることができませんでした。莊嚴浄土寺の前身となるお寺は10世紀前半の天慶年間（900-909）に建てられたと推定されていますが、発掘で手がかりはえられていません。

上は津守寺の絵図（『住吉名勝図会』）、下は住吉神宮寺の絵図（『住吉神社境内之古図』）。門を入ると両側に二つの大塔があった



## 極楽寺と榎津寺跡



## 住吉三大寺の場所

